

COLLECTION EXHIBITION

魔法の 広島県立美術館

Summer Museum

Magical Hiroshima Prefectural Art Museum

魔法
×
美術



笠山忠保《魔法のじゅうたん》 1974年 広島県立美術館蔵

2023 7/6 Thu ▶ 9/10 Sun

[開館時間] 9:00~17:00 (金曜日は20:00まで開館) ※入場は閉館の30分前まで

[休館日] 7月10日(月) ※8月7日(月)は展示替えのため閉室。

[入館料] 一般510(410)円/大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体

[縮景園共通券] 一般610円/大学生350円 ※特別展は別料金

※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。

※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

フリー
トークンデー

7/24 mon

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう!

同時
開催

縮景園連携企画

(大名庭園

＋美術館)×

現代アートⅡ 記憶の庭
菅亮平・柴川敏之とめぐる

Shukkeien Collaborative Project

第2期



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

〒730-0014 広島市中区上蔵町2-22
tel.082-221-6246 fax.082-223-1444

<https://www.hpam.jp/>

【概要】

所蔵作品展 第2期

サマーミュージアム 魔法の広島県立美術館／縮景園連携企画

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

さて、今期の当館は、盛りだくさんな企画を提供いたします。県内の巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」、特別展の魔法の美術館に着想した「サマーミュージアム 魔法の広島県立美術館」によりコレクションをご紹介します。加えて、隣接する縮景園と美術館を周遊していただくために2名の現代作家をゲストに迎えた「(大名庭園＋美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる」を通して、庭園と美術館を散策していただきます。会期中には、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信、フリートーキングデーといった楽しいイベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。この夏の美術館と縮景園にもご期待ください。

【第1展示室】41世紀の美術館

この展示室では、当館の西洋美術コレクションと現代美術家・柴川敏之しばかわ としゆきの作品とのコラボレーションをご覧くださいます。

同氏は、「2000年後に発掘された現代社会」をテーマに、身近なものを化石へと変容させた作品を手掛けています。当館に隣接する縮景園で開催中の連携展示「(大名庭園＋美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる」では、縮景園を41世紀の庭に見立てて作品を設置しています。

この展示室の冒頭では、同氏の作品が、サルバドール・ダリの大作《ヴィーナスの夢》とコラボレーションします。《ヴィーナスの夢》は、1939年に開催のニューヨーク万国博覧会内のパビリオンに設置するために描かれた作品で、周囲はさまざまな奇想のオブジェに覆われていました。同作と、柴川作品によって、ダリが手掛けた展示空間を想起させようと試みます。現在と41世紀がまじりあう魔法のような世界をどうぞお楽しみください。

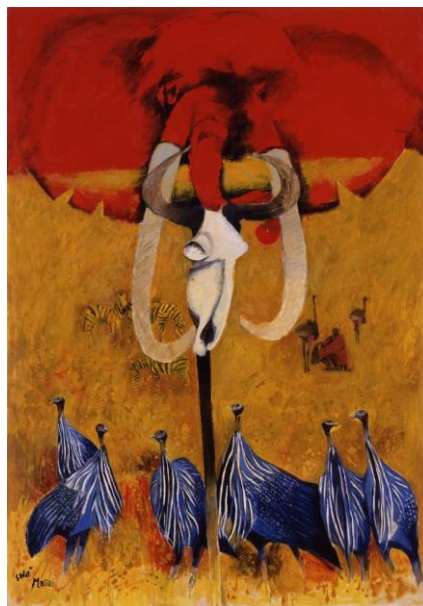


マン・レイ《黒と白》1926年

【第2展示室】魔法は想像力ー日本洋画の魔法

「魔法」は、想像したことを現実に変える力、と行うことができるでしょう。太古の昔、人間は、獣や外敵から身を守り、食料を手に入れる。ただそれだけでも命がけでした。だからこそ神に祈り、魔法を夢見たのではないのでしょうか。そう考えていると、今まで不可能と思っていたさまざまな夢を実現する力、もっと言うと、未来を思い描く想像力、それこそが「魔法」なのかもしれないと思えてきます。

この展示室では、古代中国の人たちが崇拝した神様の姿や、中山一郎の《旱天》のようにあらがうことのできない自然の力を描いた作品、名井万亀の《六根清浄》のように現代の人でも夢と思うような作品まで、想像力にあふれた作品を集めてみました。皆さんはこれらの作品からどんな力をお感じになるのでしょうか。皆さんが理想と思う未来を思い描く手掛かりになれば幸いです。



松井正《「マチーソン」への道》1975年

【第3展示室】工芸が織りなす魔法 / 東洋の魔法を感じてみよう

この展示室では工芸と日本画の作品を紹介します。

工芸からは、まず、色に変化する現象を利用して制作された作品を紹介します。色が変わるなんてまるで魔法のよう！ですが、それぞれの作家は、空気や火の力を巧みに操り、美しい色を現出させています。続いて、じゅうたんや小瓶など魔法のアイテムを想起させるような作品も集めてみました。ぜひ想像を膨らませながら、非日常の世界をお楽しみください。

日本画からは、雨や風を操る風神雷神や龍虎を描いた作品、実在の造形が変質したような印象を表した作品、恵みや加護をもたらす祈りの情景や超俗の存在を描いた作品を紹介します。また被爆への鎮魂の想いを託した平山郁夫《広島生変図》と共に、美術館・縮景園連携展示の美術作家、菅亮平による《K15-30D》を対置します。歴史事象を鮮烈に想起させる美術作品にも「魔法」のチカラは宿っているかもしれません。



笹山忠保《魔法のじゅうたん》1974年

【第4展示室】縮景園連携企画

(大名庭園＋美術館)×現代アート＝記憶の庭 菅亮平・柴川敏之とめぐる

「Half-life of Archetype」

この展示室では美術館・縮景園連携展示の一環として、広島市在住の美術作家、菅亮平と近世広島作品介绍します。

菅による「Half-life of Archetype」は、縮景園ゆかりの被爆能面と観古館かんこかんを手がかりとする企画です。縮景園内にはかつて旧藩主浅野家が使用し、饒津神社に寄付した能面・能装束類が保管されていた時期がありました。被爆しながらも現存する一部は、広島城下における文化の断絶と継承を象徴するような文化財として、大切に受け継がれています。また園内の一角に設立された美術館「観古館かんこかん」(1913-1940)も失われて久しく、しかし石造ゆえに姿を留めた門柱は本来あるべき居場所を失いながらも、かつての記憶を今につないでいます。このような歴史性に着想した菅は、戦前の広島で盛んに行われていた能の文化・美意識へも視界を広げて、物質や事象の変容していく時間軸に内在する祖型・理想を問いかけます。

菅が生み出す展示空間は、近世広島の作品とともに過去の喪失・不在への想像力をかき立て、そして喪失した時間軸にそれらの本質を想起させることでしょう。

⇒[縮景園連携企画につきましては、詳しくは連携企画プレスリリースを参考ください。](#)

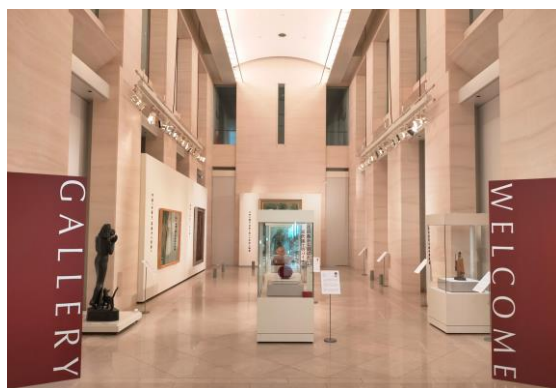
【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン25周年を機に、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、わかりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介します動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家の小林千古・南薫造・顰光こばやしせん こ みなみくんと あい、日本画家の児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家の平櫛田中・圓鐸勝三、工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1階ロビーにて画家・菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時: 2023年7月14日(金) 15:00～(各室10分程度)

場所: 2階展示室

講師: 山下 寿水(当館主任学芸員)、角田 新(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)、隅川 明宏(当館主任学芸員)

定員: 15名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入口でお待ちください。

■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。日時: ① 2023年9月2日(土) 10:00～ ② 2023年9月9日(土) 15:00～

場所: ① オンライン ② 2階展示室(ワイヤレスガイド使用)

ナビゲーター: ① 森 万由子(当館学芸員)

② 岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

定員: 8名 ※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】 ※②は要入館券。会場入り口でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15分間)

① 西洋美術 2023年7月11日(火) 17:00～ 講師: 山下 寿水(当館主任学芸員)

② 日本洋画 2023年7月18日(火) 17:00～ 講師: 角田 新(当館主任学芸員)

③ 工芸 2023年7月25日(火) 17:00～ 講師: 岡地 智子(当館主任学芸員)

④ 日本画 2023年8月1日(火) 17:00～ 講師: 隅川 明宏(当館主任学芸員)



公式Instagram

■フリートーキングデー 2023年7月24日(月) 9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、
フリートーキングデーを試行的に実施。当日は各種イベントも併せて行います。

① ベビーカーツアー 9:30～10:30

授乳室など館内案内の後、展示室を案内します。

講師: 福田浩子(当館学芸課長)

定員: 5名

※事前申込不要 ※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

フリー
トーキングデー
7/24 mon

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう!

② 対話型鑑賞 10:30～11:30

HACH(Hiroshima Arts & City Hive)と共同で実施します。思ったこと、感じたことをみんなで共有しながら作品を鑑賞します。

ファシリテーター: 片島 蘭(広島市立大学非常勤特任教員) 協力: 森 万由子(当館学芸員)

定員: 10名程度

※事前申込制(お問い合わせ・申し込みはHACHまで hach_info@icloud.com)

※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

③ 対話によるギャラリートーク 13:00～14:00

講師: 山下 寿水(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)

定員: 8名

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみなでお話しながら鑑賞します。

※事前申込制 ※要入館券、2階展示室入口にお集まりください。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。御了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。(ボールペン等使用不可)

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下 寿水

総務課 広報担当 一色 直香

— 当館公式SNSはこちらから —

